ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社

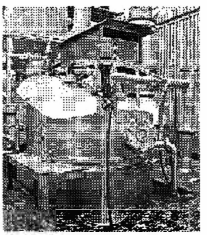
日本環境保全

石綿溶融炉を小型化

実証実験、価格は半分に

石綿を防ぐ

【つくば】廃棄物処理技術開発の日本環境保全（茨城県牛久市、和田力社長）は、アスベスト（石綿）を溶融処理できる小型炉＝写真＝を開発し、十一日に実証実験を公開した。連続投入が可能で、低コストで設置できる。自治体や民間の処理業者などに売り込んでいく。



実証試験では、約百キログラムの吹きつけアスベストをはがした廃棄物などを溶融、約四十分で処理が完了した。今後、処理したスラグや煙を洗浄した水などを分析して、無害化処理ができていることを確認する。価格は一時間に一・五トンのアスベストを処理できる溶融炉で六億円程度と、従来の溶融炉に比べ半分以下になるという。

茨城大学と共同で開発した油と水を混ぜて高温で燃焼するバーナーを使い、セ氏一四五〇―一八〇〇度の高温で処理が可能。焼却灰用などの溶融炉の投入口を、袋に入ったままのアスベストでも使いやすいように改良するなどした。

引用）2006年4月12日
日経産業新聞（p.15）